

宝満川

筑紫野市 小郡市 筑前町 久留米市

次へ

七夕伝説が宿る地上の天の川

宝満川はその源を筑紫野市の宝満山に発し、小郡市の中央部から筑前町、久留米市を貫流し、筑後川に注いでいます。流域面積260.3km²、流路延長34.5kmの一級河川です。

小郡地区では、運動公園やサイクリングロードがあり、多くの人が訪れます。また、川を挟んで七夕神社と老松宮があることも、宝満川は「天の川」をそのまま地上に描いたかのようです。小郡市は都市像を「七夕の里・小郡」としています。



小郡運動公園内に設置された噴水塔
織姫の噴水 おり姫（はこ姫）をイメージ



牽牛の噴水 牛のつをイメージ



七夕伝説は中国から伝わったものですが、宝満川とその周辺地域は受け入れるための条件がみごとに揃って、ここに根づいたのだと思います。

小郡を含む筑後では古くから織物に携わっていた人々が多く、織物の神として「たなはたつめ」という機織りの女神を信仰していました。この「たなはたつめ」の女神と伝来してきた中国の「セタ」（しちゅう）の信仰の織女の物語がいつの間にか混ざりあって、日本でも最も早い時期に七夕伝説が根づきました。

宝満川は、今なお古来からのロマンスをその緩やかで、静かな流れとともに人々に伝えているのです。



七夕神社に隣接する「たなばた地域運動公園」の入口にある。やさしい顔した織姫と彦星のブロンズ像です。

まるで地上に描いた天の川。それが「宝満川」です。
織姫星(織女星)と彦星(牽牛星)に見立てた様に、宝満川を挟んで西に七夕神社、東に老松宮がありそれぞれに、織女神と犬飼神の御神体がまつられています。

⑦ 七夕神社 小郡市大崎(おおさき)にある「七夕神社」にまつられているのは、赤い中国風の衣裳をまとい、手に糸巻きを持つ女性の像です。この七夕神社(媛社神社)には、媛社神(ひめこそのかみ)と織姫神(おりひめのかみ)がまつられており、七夕物語の織姫をモチーフにして彫られたと言われています。



■織女神の御神体
今からおよそ2300年前に彫られたとされています。



←久留米市に入った宝満川
(撮影は鳥栖市側から、対岸が久留米市になります)



筑後川(画面左)との合流地点です。



筑後川合流直前の宝満川です。



筑紫野市から宝満川の源である宝満山を撮影しました。



永岡から小郡市方面の風景です。



小郡市に入って宝満川を撮影しました。



小郡運動公園横の宝満川。ゆったりとした流れに心が安らぎます。



上岩田(国道500号線)から久留米方向に向かって見た宝満川です。



上岩田(国道500号線)から筑紫野方向に向かって見た宝満川です。



■犬飼神の御神体
普段は公開されていませんが、七夕神社の案内板に写真が掲載されています。



⑨ 老松宮
かつて、宝満川を挟んだ七夕神社の対岸には、犬飼神(いぬかいしん)をまつった牽牛社がありました。現在は稲吉の老松宮に合祀(ごうし)されています。この犬飼神の御神体も七夕神社の御神体とほぼ同じ時期に作られ、青い中国風の服をまとい牛を連れていきます。牛飼の姿なのに犬飼神? その昔(千年程前)は、犬も、牛や馬も同じで、家畜を飼うことに変わりなかったと推測されます。